

## 茨城県にて「最新技術講演会」が開催されました！！

地域活動グループリーダー幹事

小峯秀雄（茨城大学）

平成16年10月29日14:00～17:00にホテルレイクビュー水戸において、東京工業大学教授 太田秀樹先生と茨城県新線沿線整備課長 後藤和正先生のお二人をお招きして「最新技術講演会」が開催されました。茨城県庁の方をはじめ、県内の建設会社、地盤調査コンサルタント、設計コンサルタント、東京や千葉からの参加者も含め、約110名の方々にご参集いただきました。

ご講演に先立ち、関東支部副支部長の安原一哉先生（茨城大学）から、地盤工学会関東支部の趣旨説明がなされました。“もっと地域に密接して”、“地元のため、子孫のため”という意識を高くするために、地元の具体的な問題や住民に直接貢献するために、社団法人地盤工学会に関東支部が設立された旨、紹介がなされました。

まずはじめに、太田先生からご講演をいただきました。太田先生からは、「新しい力学理論の必要性—健全度調査の調査結果をいかに利用するか—」、「維持・管理・更新のための計測・解析技術—設計のための技術とは違う視点で探求すべきもの—」、「JGS 和文電子論文集一つぎの世代が活躍できる場をつくってゆこう—」という3つの話題を講演いただきました。時にユーモアを交えながら、しかし、現場の動態解析の経験に基づく熱い思考、特に設計に活用するに留まらず、維持・管理に動態解析を活用していこうという斬新なアイデアをご披露いただきました。

また、先生が命名された“もしもシリーズ”、すなわち実態と違うことをしたら、どのような結果になったか、メンテナンスも含めたコストなどを計算することの面白さと重要性も強調されました。さらに、JGS 和文電子論文集に関連して、事故やトラブルに関する事例を、身を守る一種の保険として、発注者・受注者・研究所や大学の研究者の連名で論文を投稿して欲しいと主張されました。論文集に投稿する意義として、専門家の批判の目に曝すことにより、その時点での技術レベルの点から問題が無かったということを証拠付けることとなります。自動車会社や原子力発電の蒸気パイプの事例を取り上げ、現代の最高級工業技術でも分からないことはたくさんあるのだから、神様が創り上げた地盤であれば分からないことはたくさんあるのは当たり前であることを、隠さずに表に出してゆくべき時代にあると強くおっしゃられました。

次に、茨城県の後藤先生にTX（つくばエクスプレス）に関するご講演をいただきました。県内のビックプロジェクトであるTX開業について詳細な紹介をいただき、地元住民でもある著者にとっても、はじめて耳にする最新の情報をいただくことができました。つくば駅を皮切りに秋葉原までの各駅の構造・設計仕様を具体的に説明され、なぜこのような構造になったのか等を、周辺の地域特性との関連を持ってお話していただきました。さらに、TX周辺のまちづくりにも、茨城県が大きく貢献している内容をご紹介いただきました。具体的には、比較的広範な敷地を確保できる優位性を生かした宅地開発、防犯を意識した都市環境創り、学術研究機関が数多く立地している特色を生かしたまちづくりについてお話をいただきました。

ご講演終了後、直ちに親睦を深めることを目的とした懇親会が、同会場にて行われました。産・官・学が一同に会した懇親会となり、大変意義深いものになりました。茨城県グループでは、さらに県内に位置する（独）土木研究所への見学会を予定しております。ご期待ください。



熱弁を奮う太田先生



熱心に聴講し質問する聴講者